

会報 ふくしま

No. 73
H29.1.13 発行



リスボンの街と大西洋に面した湾（撮影／郡山支部 満井紀勝）

CONTENTS

- 1 会長あいさつ
- 2 新年のあいさつ(福島地方法務局長)
- 3 新年のあいさつ(政治連盟会長)
- 4 新年のあいさつ(公嘱協会理事長)
- 5 会務報告
- 6 支部だより
- 7 随 筆
- 8 年男・年女紹介
- 9 インフォメーション
- 10 編集後記

会員のみなさまへ

本年もよろしく
お願いします！



広報キャラクター 地識くん



2017年新春のご挨拶

会 長 橋 本 豊 彦

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様にはご家族様とともに健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

また、旧年中は会務運営にご理解とご協力を頂きましたことに心から感謝申し上げます。

さて、東京電力福島第一原発事故から5年9ヶ月が過ぎた昨年、東京から仙台までを結ぶ浜通りの大動脈であるJR常磐線は、東日本大震災の津波で線路や駅舎が被災し、不通になっていましたが、相馬浜吉田(宮城県亘理町)駅間(23.2km)が12月10日に運転を再開しました。このことで、浜通り地方の住民の利便性が高まり、被災地の復興加速に繋がると期待されております。

ところで、オンライン申請促進について、当会は代理権限証明情報の原本提示の省略を実現し、土地の分筆登記や地積更正登記の完全オンライン申請化を目指すため、福島地方法務局の全面的な支援を得て、各支部のオンライン促進委員協力のもと、土地家屋調査士としてオンライン申請利用率80%実現を目指しております。

平成27年12月時点で、本局管内は全体で30%のオンライン利用率でしたが、平成28年9月には、本局が64.6%、郡山支局が56.4%、その他の支局が50%未満で、全体としては44%の利用率となりました。

今後も、利用率80%の目標達成に会員皆様の一層の協力をお願いいたします。

さて、日調連は、土地家屋調査士の「調査権限の強化」と「業務処理環境の改善」に努めており、「立会要請」、「立会代理」といった業務、さらに、登記を伴わない調査測量業務等を土地家屋調査士の業務とするため、土地家屋調査士法施行規則第29条の一部改正に政治連盟の支援を得て取り組んでいるところです。

それに伴い、私たち土地家屋調査士も、昨今の急速な社会の変化に適切に対応するため、資格者としてバージョンアップしなければならないと思っております。

本年も土地家屋調査士の更なる地位の向上を目指し、役員及び事務局職員一同協力して参りますので一層のご支援とご協力をお願いいたします。

最後に会員ご家族皆様、各事務所の方々にとりましては、今年もご健勝で幸多い年になりますようご祈念申し上げ新年の挨拶といたします。





新年のごあいさつ

福島地方法務局長 持 田 弘 二

新年あけましておめでとうございます。

福島県土地家屋調査士会の会員の皆様方には、御家族おそろいで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

会員の皆様方には、日頃から不動産の表示に関する登記及び筆界特定制度の適正かつ円滑な運営につきまして格別な御理解と御協力を賜っており、改めて厚く御礼申し上げます。

また、昨年は特にオンライン申請率向上のための取組にも積極的に取り組んでいただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から5年を経過し、昨年12月10日には常磐線の新地地区が開通し、仙台へのアクセスが改善されるなど一定のインフラ整備が進んできたところです。

また、福島第一原発事故による影響から、避難指示が出されていた地区についても、除染が進んできたことにより避難指示が解除される地区も出ており、中間貯蔵施設用地に関する登記申請も増加するなど、浜通りの復興も少しずつではありますが着実に前進していると感じています。

しかし、一方ではいまだに避難生活を余儀なくされている方も多く、横浜市へ避難した児童が、言われ無き差別によりいじめを受けるなど風評被害も表面化するなど、原発事故の影響と重なる部分については、先の見えない辛く厳しい生活を強いられている状況です。

そのような中で、会員の皆様方におかれては、法務局で実施している震災復興型地図作成作業や筆界特定調査員のほか、復興のための公共工事など担う役割は非常に重要であり、国民の皆様からの期待は大きいと感じています。

法務局としましては、今後とも被災地復興のための事業を積極的に実施することで、一刻も早い復興に寄与していきたいと考えておりますが、そのためには会員の皆様のお力も必需となることは明白であります。

昨年4月には熊本県を中心とした大規模地震が発生し多くの犠牲者を出してしまったことは記憶に新しいと思いますが、福島局としては東日本大震災において全国から応援を頂いた被災局として、被災建物の公費解体における職権滅失作業について応援していく予定です。

貴会においても東日本大震災でのノウハウをお伝えしていただくなど、熊本地震に伴う震災復興を進めていく中でも、福島法務局及び福島県土地家屋調査士会が力を貸していける年となれば良いと思っています。

地元である福島県のためはもとより、日本を良くするための取組は福島県から発信していけるよう、今後とも引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会の益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

福島県土地家屋調査士政治連盟

会 長 阿 部 次 雄

新年明けましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

新年早々、なんと言っても注目なのは、本年1月20日に就任する第45代アメリカ合衆国大統領「ドナルド・ジョン・トランプ氏」のこれからの政治手腕であります。世界の警察と言われ、その言動には世界中が注視するのです。

昨年、11月8日政治の世界ではまったく無名であった共和党のトランプ氏が予想を覆し勝利しました。異色の次期大統領のこれまでの暴言には、多くのアメリカ国民も日本でもその報道には眉をひそめたのです。

しかし、それ以上に現状に不満を持つアメリカ国民が共鳴したのです。「悪名は無名に勝る」を証明しても見せたのです。選挙分析の天才と呼ばれる統計専門家ネイト・シルバー氏が「私の人生で最も衝撃的な政治事件」と認めたほど予想が大きく外れた事を意味します。

安倍総理大臣は、すかさず第1号でトランプ次期大統領と会談にこぎつけましたが、このタイミングはお互いに丁度良かったと言われています。同盟国の中で、先進7か国(G7)のメンバーでもある日本は、アジアの重要な同盟国であることを証明したのだと思います。

TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)で揺れ動く日本は、そのリーダーシップを掴みアメリカとも協調出来るのでしょうか。日本の外交については、安倍総理が直接にいろんな国々にトップセールスを積極的に展開しています。昨年末は、総理の地元山口県にロシア連邦ウラジーミル・プーチン大統領を招き、戦後70年もの間膠着状態が続く北方領土問題について平和条約締結に向け、その一歩を踏み出す事ができたようです。

中国との尖閣諸島問題も、その周辺海域問題などもそう簡単にはいかない事ばかりであります。

特に、中国の習近平主席が描く世界戦略は、「一帯一路」陸のシルクロード・海のシルクロードを創り上げるのだそうです。そこに接する国々の人口をトータルすると、なんと世界の63%(46億人)にも及ぶのだそうで、その殆どの国々がAIIB(アジアインフラ投資銀行)国際開発金融機関の仲間入りをすれば、提唱者でもある中国習近平主席の思う壺という事の様であります。

我が福島の復興とは言え、まだまだ道半ばであります。そんな中でも、県北地方の国道115号バイパス「相馬福島道路」の一部供用開始が今春にも始まり、次年度になるとパーシモンゴルフ場近くの(仮)霊山ICまで開通するようで、相馬港に運び込まれる液化天然ガス(LNG)が内陸部へジャンジャン陸送されるそうです。

また、東北中央自動車道「福島・米沢間」の供用開始も本年末にも始まるのかなと期待しているところです。

さて、本年で設立16年を迎える本連盟は、その目的である私たち土地家屋調査士の制度の充実・発展、社会的地位の向上を目指して運動を展開しています。

全調政連と日調連は、連携しながら諸課題を達成するため私たち調査士の為に組織されている議員連盟の先生方へのロビー活動等も一生懸命に頑張っています。

会員の皆様からは、政治連盟の活動状況がよく分からないとの声を聞くことがあります。これは、残念ながら日頃の私たちの活動状況が正しく伝わっていない事に起因していると考えられます。政連ニュース等により、懸命に活動報告をしまいいりますのでご理解とご支援を賜りたいと思います。本年も、皆様にとりまして素晴らしい1年となります様ご祈念申し上げまして新年の挨拶と致します。



新年のごあいさつ

公益社団法人
福島県公嘱託登記土地家屋調査士協会

理事長 舟山 幸雄

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、それぞれに思いを新たにして新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より会員の皆様、当協会社員の皆様には協会の事業と運営にご理解とご協力を頂いておりますことに心より御礼申し上げます。

東日本大震災からまもなく6年目を迎えようとしていますが、昨年11月には東日本大震災の余震となる震度5弱の地震があり、少しずつ薄らいでいた震災の記憶が一気に呼び戻された思いを致しました。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染被害から逃れようと横浜に避難した家族がいじめや嫌がらせを受けるなど、人間として大変残念なことでありますが、県外での福島県人への差別が未だにあることは衝撃的であり、同じ県民として到底看過できるものではありません。

さて、昨年は、日銀が初のマイナス金利導入、消費税増税の延期、選挙権年齢の引き下げによる初選挙、組織票のない選挙で初めての女性都知事が誕生、天皇陛下のお気持ち表明など、社会経済情勢に変化がありました。私たちが公嘱協会は、「不動産に関する権利の明確化推進事業」として、いわき市小名浜地区、郡山市桑野一丁目地区で震災復興型地図作成作業を行ってまいりまして、まもなく成果図書の納品の運びとなります。また、会津若松市御旗町地区で地図作成の一年目の作業に入りました。当協会が行う地図作成作業は、土地家屋調査士としての高い使命感により筆界未定率ゼロとして非常に高い成果を納めており、担当社員事務所の業務も忙しい中これに携わってこられた方々に多大な敬意を表したいと思います。

研修事業については、11月に空き家対策法に関する公開講座を郡山市のビッグパレットふくしまにて開催致しました。国土交通省住宅局担当係長から「空家等対策の推進に関する特別措置法」の解説、郡山市建設交通部担当課長から「空家等対策の推進に関する郡山市の基本方針」の説明、一般社団法人IORI倶楽部から「奥会津過疎地域における空家再利用の取り組みと実績」の報告、公益社団法人福島県宅地建物取引業協会から「空家解消に向けた宅建協会の取り組みと提案」を説明して頂き、会場は官公庁職員、司法書士、不動産鑑定士等の関係資格者など約160人の参加者がありました。

嘱託登記のオンライン申請は、法務局が各市町村自治体にPR活動を行ってきたことと、協会各支所長の啓発活動、そして業務打合せ時における担当社員のオンライン推進の啓発をしてきた成果が少しずつ表れてきております。オンライン登記申請による成果物の納品を行っていない自治体がありましたら、是非法務局にご一報頂くと共に、公嘱協会の立場からも嘱託登記のオンライン申請を推進してまいりたいと考えます。

最後に、今年も協会運営につきまして皆様方のさらなるご支援とご協力をお願いし、健やかで幸多い年であることをご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

会 務 報 告

地上絵プロジェクトの実施と今後の計画

広報部長 菅 野 貴 弘

平成28年10月4日（火）南相馬市立高平小学校で石川県土地家屋調査士会主催、福島会共催のもと地上絵プロジェクトを実施しました。このことについてはホームページ、調査士会だよりでも報告し、また福島中央テレビの「ゴジてれChu!」でもその時の様子が放映されましたのでご存知の会員の皆様も多いと思います。

広報部では、今後福島会単独でも地上絵プロジェクトを実施することができるよう、来年度以降伝達研修を行いたいと計画しております。

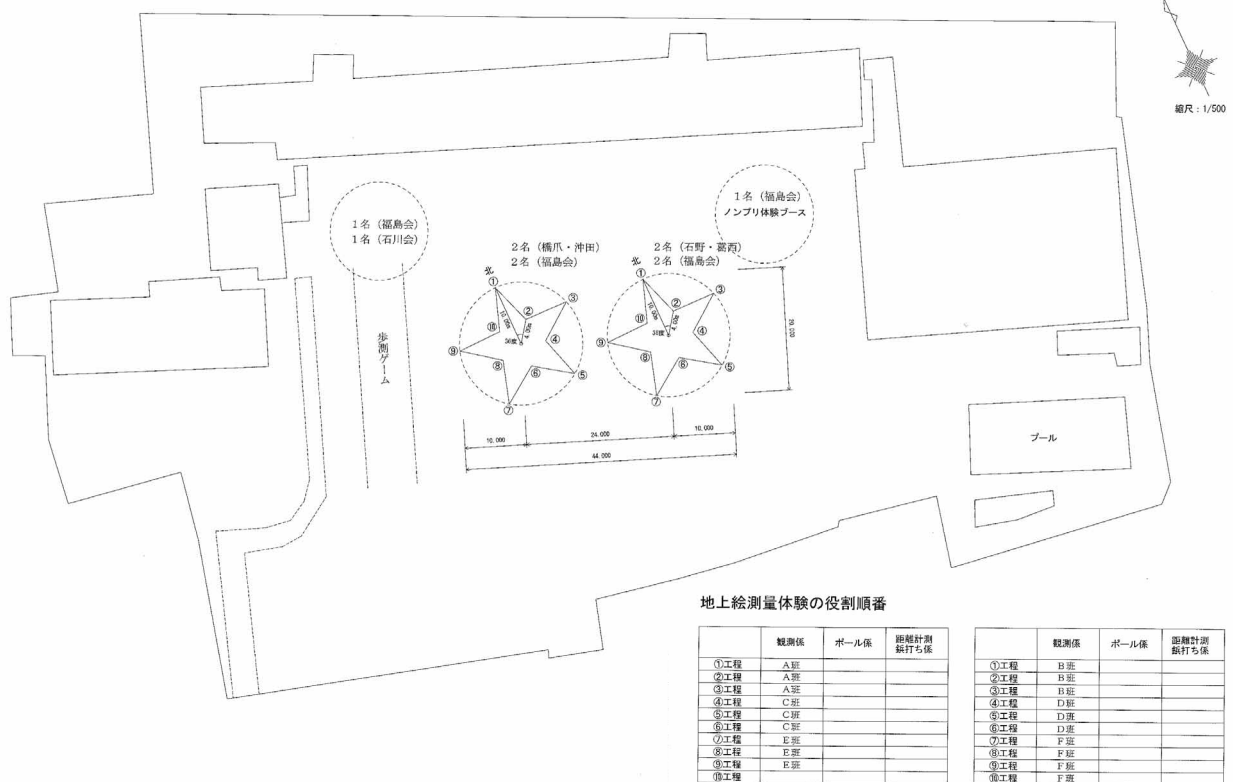
そこで、本稿では当日行われた地上絵プロジェクトの手順を簡単に紹介したいと思います。校庭

に描くのは約20mサイズの星型2つです。

まず、教室で約20分の座学を行います。内容は測量と調査士の業務について、縮尺について、測量の歴史と地上絵、現代の測量と原理、三角形を使った求積についてです。その後校庭に移動し、星型を作成する作業に入りますが、あらかじめトータルステーションを星型の中心になる点に設置しておきます。子供達を3人1組にし、それぞれにトータルステーション、ポール、巻き尺を担当してもらいます。

1点目はコンパスを使い北方向に取りますが、それ以降はトータルステーション係が水平角を合わせ、ポール係を誘導します。ポール係が誘導された方向に立つと、巻き尺係が距離を測定し、決められた距離の位置に調査士が鉄を打ちます。次に3人の役割を入れ替え、同様の作業を繰り返し、

（地上絵プロジェクトin福島 レイアウト図）



レイアウト図

全員が一通りの役割を終えると次の3人組に交代して同様の作業を繰り返します。

ある程度鉋を設置したら、調査士が鉋と鉋の間を白線で結び星形を描いていきます。地上絵作成は2つ同時に進行しますが、その間残りの子供達には歩測で距離を当てる「歩測の達人」というゲームや、「ノンプリ体験ブース」で距離や高さを測定する体験をしてもらいます。

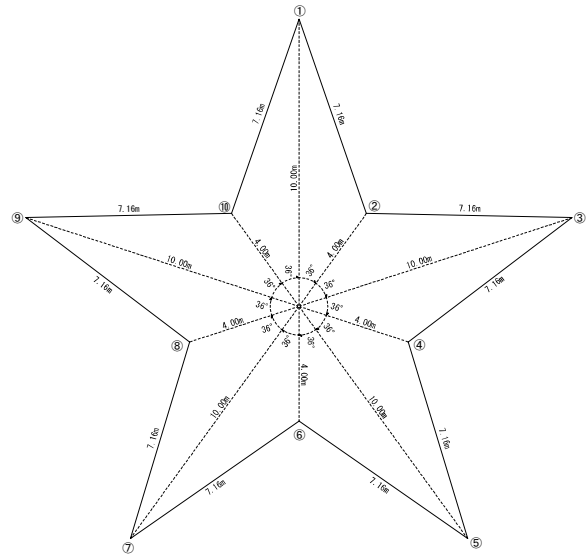
地上絵が完成したら子供達に星型の上に立ってもらい、3階のベランダから撮影した後、子供達にも3階ベランダに移動してもらって自分達で作成した地上絵を見てもらいます。最後に教室に戻って「歩測の達人」の成績上位者3人を表彰します。

福島会でも上記の石川会のやり方をもとに、多少の改良を加えて実施していきたいと思っております。尚、今回は地元の濱名広報部理事個人の伝手もあったため高平小学校で実施することができましたが、受け入れ先の学校を探すのが一番大変でした。

石川会や他の会でも調査士個人の伝手で受け入れ先を見つけているのが実情のようです。福島会

で実施するときには、受け入れてくれる学校の情報の収集も含めて会員の皆様のご協力をお願い頂けたらと思います。

星型の土地の地図
(縮尺 100分の1)




星型の土地の地図



完成した地上絵

「歩測の達人」




姓

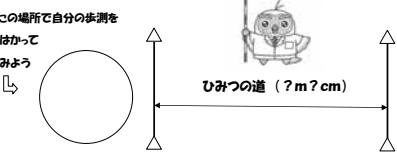
名 前

◎ [ひみつの道]の長さは ?m?cm でしょうか？

- スタートする前に、自分の[歩幅]を測ってみよう
- たとえば自分の一歩が 60cm で、ひみつの道を 50歩 で歩いたとすると

① 60 (cm) × 50 (歩) = 3000 (cm)
 ② 3000 (cm) = 30 (m) ... になります


- それでは、自分の足で[ひみつの道]の距離を測みましょう
(イメージ図)
この場所で自分の歩測をはかってみよう



ひみつの道 (?m?cm)

答 え			
1. 自分の 一 歩 は	[] (cm)		
2. ① [] (cm) × [] (歩)	= [] (cm)		
② [] (cm) = [] (m)	[] (cm)		

「歩測の達人」記入用紙



「歩測の達人」成績優秀者表彰

地上絵の面積測ろう

石川県土地家屋調査士会 南相馬で出前講座

石川県土地家屋調査士会（丸田三智男会長）は4日、南相馬市原町区の高平小学校で測量体験学習・地上絵作成の出前講座授業を実施した。本県土地家屋調査士会（橋本豊彦会長）が共催。被災地支援活動の一環で、石川県から9人、本県から



校庭で測量を行う高平小学校の児童

「地上絵プロジェクト」を開始。地域の小学校などで校庭に大きな図形を描いて、測量をしながらその面積を求める授業を行っている。南相馬市での開催も検

13人。秋田県から1人が参加した。6年生が学習している算数の「拡大図と縮小図」への理解を深めてもらい、算数の面白さや楽しさを感じてもらおうのが目的。石川県協会では震災のあった23年11月、子どもたちを元気づけようと「地上絵プロジェクト」を開始。地域の小学校などで校庭に大きな図形を描いて、測量をしながらその面積を求める授業を行っている。南相馬市での開催も検

H28.10.7 福島建設工業新聞

測量学び校庭に巨大画

原町 高平小6年生が体験



測量業務を体験する児童ら

南相馬市原町区の高平小の6年生は四日、測量技術を活用した。測量業務に理解を深めながら、協力を

県土地家屋調査士会、石川県土地家屋調査士会が、業務で培った技術を活用して子どもたちを応援しようと企画した。児童は測量機材の使い方や歩測の方法などを「プロ」に学びながら、幅約三十メートルの正確な星形を校庭に描き出した。測量業務に理解を深めながら、協力を

相双

身近な情報をお知らせください

H28.10.9 福島民報

第6回避難者懇談会を開催して

日 時 平成28年11月4日(金)

午後3時30分～午後5時30分

場 所 福島市飯坂町「摺上亭大鳥」

参 加 者

[本 会]

会 長 橋本豊彦

副会長 小野寺正教、橋本祐司、根本大助

広報部理事 濱名康勝

[相双支部]

支部長 木村禎司

[避難会員]

畠山 勝、小野田幸一

平成28年11月4日、第6回目となる避難者懇談会を開催いたしました。

今回は避難会員2名の参加（第5回は4名）と、参加できない避難会員が多い状況でしたので、今回参加できない会員の近況は調査報告しませんでした。

懇談会では、避難会員から近況を伺い、本会からは会務の状況を報告しました。

特に本会からは、「出前講座（地上絵プロジェクト）」実施状況のビデオを持参し、見ていただきました。

避難会員の皆様の状況としては、家族が新天地に居宅を新築したのでそこに住まわれているとか、受託業務を行っているなど震災直後の状態ではなく、まだまだではありますが、復興に向けた進展があることがわかりました。

尚、本会及び出席した避難会員の双方から、「避難者懇談会の開催は今回で終了してもよい状況に至ったのでは」旨の話ができました。

懇談会の後は、温泉に入ってから懇親会を行いました。話題は「調査士そして調査士会のこれ

から」の一つでした。そして、懇親会後部屋に戻ってからも話は尽きませんでした。



懇談会の様子



懇談会の様子



避難者懇談会出席者

(報告：広報部理事 濱名康勝)

支 部 だ よ り

副支部長日記

福島支部 黒 森 陽 一

【規 則】

福島県土地家屋調査士会福島支部規則第10条第2項 副支部長は、支部長を補佐して支部の事務を行い、...以下略

【序】

理事の時は『1に飲み会、2に仕事、3に支部運営』と、飲み会をこよなく愛し、支部運営を慈善事業と考えていた私にとって、福島支部の飲み会の多くは楽しく、居心地の良いものでした。そんな私に次期副支部長の話が舞い込んできたのが2年ほど前のことです。私に務まるのだろうかとの思いが頭をよぎったものの、開業して10年以上お世話になった組織への恩返しの気持ちを込めて、また、楽しく飲むためにと考え、ほぼ二つ返事で受けました。

【新任副支部長】

しかし、副支部長になってみると、やはり荷が重かったと痛感。責任感のある新任の佐藤支部長と理事感覚の残る私は雲泥の差。『1に仕事、2に支部運営、3に飲み会』（もしかすると1に支部運営、2に仕事、3に飲み会の順かも...）の支部長からよく指導を受けました。

【支部担当事業】

福島支部は、2人の副支部長がそれぞれ『総務・政連』、『企画・経理』を担当する2部構成。私は企画・経理担当の副支部長。

経理は言わずもがな。企画は、研修会、登記事務打合せ、他士業との無料相談会が主な事業。

それぞれの事業の陣頭指揮をとり成功させる上で多くの困難が待ち受けていました。研修会にお

いては、研修内容を決めることが大変でした。支部会員の声を反映させる流れの必要性を実感しました。登記事務打合せにおいては、質問の洗い出し作業が難航、まとめも困難、法務局との打合せも数回に渡り自分の仕事に悪影響がありました。

他士業と合同の無料相談会においては、例年通りのため困難は少なめでした。

【突然の訃報】

1期2年の一年目の事業の多くを完了した一昨年12月に、総務・政連担当の経験豊富な三浦副支部長の訃報が届き自分の耳を疑いました。まだまだ学ぶべきことが多かったので残念でなりません。

【経 験】

この一年半はあっという間に過ぎた気がします。その中でも各種事業を遂行する上で多くの経験をさせていただきました。また、懇親会ではお互いの労をねぎらい、激しい討論のやりとり、会員同士の情報交換（測量技術、登記申請、報酬など）ができたことは非常に有意義でした。

いま改めて支部規則を考えてみると、良い副支部長だったとは言い難いですが、支部長からの多くの助言と指導、そして支部理事の皆様のお蔭で全うすることができそうです。

【今 後】

近年登録する若手調査士は一人調査士が多く、各組織との役員兼務が必要となる中、選考が困難になっています。若手には積極的に支部運営に関わってもらいたいと思います。私も感謝の気持ちを持って、支部運営に関わっていく所存です。

最後に、私のこの拙い日記が今後の各支部役員を担う会員の参考になれば幸いです。

* * * * *

わが家にきなこがやってきた!!

郡山支部 田村 博之

わが家に子猫がやってきたのは平成27年11月1日でした。玄関を入るとすぐ狭い所に隠



れてしまいました。怯えつつも家の中を探検するその子猫の名前は「きなこ」でした。

きなこは平成27年9月4日、次女が学んでいる学校の敷地内で生まれ、母猫が子猫を置き去りにしたため、次女を含む女子生徒がこっそりと寮の中で育てていたのです。きなこの写真をLINEでこまめに家族に送信し、可愛さをアピールしていました。3ヶ月経過しても子猫の里親は全然見つからず、ついに親に頼ってきました。きなこは雄です。体毛が茶色なので、「きなこ」と名付けられ、我が家でもそのままで呼ぶことにしました。



学生寮での猫トイレはちぎった新聞紙でしたので、猫砂でのトイレトレーニングは大変でした。猫砂の上に新聞紙を置きつつ徐々に慣れさせました。わが家では私の出勤時間が一番遅いため、きなこが

をするときは私が片づけなければなりません。自分の子どもたちが幼い時のように、トイレトレーニングが成功した時には褒め、お尻や足も拭いてあげています。

実は、私は子猫を始め動物が苦手でした。幼い頃、猫に引掻かれたり、犬に噛まれたため動物には怖い思い出しかありません。仕事柄、顧客訪問も頻繁にありますが、特に犬がいることがわかったと身体が竦んでしまいます。お客様がそれに気付

き、犬を別室に連れて行ってくると安堵します。しかし、以前あるお客様を訪問した際、返事はあるもののお客様が玄関に現れないため恐る恐る玄関を開けると目の前に犬がいたではありませんか。その時ばかりは犬をじっくり観察し、興奮度、縄張りの主張度を確認しつつ廊下の端をゆっくりと進んで行きました。足は竦み、額には汗をかき、心臓は飛び出さんばかり、喉はカラカラでした。動物の苦手な方は同じ体験をしたことがあるのではないのでしょうか。

きなこは否応なしに私に近づき、遊びをせがみながら私の身体をよじ登ってきたので、きなこに触らざるを得ませんでした。50歳を過ぎ、やっと動物に触るのが恐くなりました。ある日、顧客訪問したところ、インターホンを押しただけで犬が吠え始めたのが聞こえました。お客様に中に招かれた後、子犬がじゃれてきましたが、何と私は子犬の頭を撫でることができたのです。私自身も自分の変化にただただ驚くばかりです。

きなこは1歳3ヶ月になりました。夏は暑さでグータラでしたが、寒くなった今、家中を我が物顔で疾走しています。あらゆる家具に飛び乗り毛をまき散らしていくので、モップ掛けは欠かせません。暇なときは遊び相手になってあげるのですが、足や手を噛んだり引掻いたりするので、お風呂に入るとひりひりします。ネットで話題の「カゴ猫」のように、一日でも早くジューツと動かなくなってほしいです。因みに、秋田会の古川先生の猫は約20kg、宮城会の古積先生は約20匹の猫を飼っているそうです。脱帽です!!



* * * * *

雑 感

会津支部 樟 山 裕 康

2016年も残すところ2週間余り。

4月に開業し、あっという間の9ヶ月でした。

期待と不安の中で開業を決意したわけですが、(家族はもっと不安だったでしょうが...)先輩方にご指導いただきながら、お手伝いをさせていただいたり、お仕事を依頼してくださるお客様との出会いなど、振り返ると、サラリーマン時代とは違った感じの、充実した1年であったなと感じるこの頃です。

開業当初、車でいえば低速ギア、そんな勢いのままに、生まれて初めての飛び込み営業など、その気になればやれるんだと新たな自分の発見もありました。

来年は、ADR特別研修の受講、調査士となつての初めての14条地図作成への参加などの予定があります。

11月に開催された新人研修時に橋本会長から「将来、調査士をやって良かったなと思えるように」というお言葉をいただきましたが、将来そう思えるように、2017年もまた低速ギアのまま、業務はもちろん新しい事にもチャレンジし、自分を高めていきたいと考えております。

* * * * *

土地家屋調査士開業に至るまで

白河支部 齋 須 正 洋

私の父は、白河市で測量設計事務所を20年以上経営しています。私は、家業を継ぐため平成23年に実家に戻る事となりました。以前は、測量業とは全く別の業種で仕事をしていたので、

測量業がどういったものなのかということすら分かりませんでした。

そこで私は、測量士補を取得するため1年間、測量専門学校に通学しました。測量専門学校のカリキュラムの中で出会った土地家屋調査士講座を学習したことが土地家屋調査士を目指すきっかけとなりました。

今まで学習したことの無かった「不動産登記」という部門は、生活していくうえで必要不可欠であること、それ以上に勉強していてとても楽しいと感じることができました。何度も、繰り返し勉強し続け、さらにはモチベーションを保ち続けることは、とても大変でした。そして、3年間の勉強の成果が実り、平成26年に土地家屋調査士に合格することができました。

合格後は、実務に関して何も経験がないまま開業することは、とても心配だったため、土地家屋調査士事務所で修行させて頂くこととなりました。修行中は、机上では学ぶことができなかった資料の収集、地図や地積測量図の使用方法、書類の作成方法、現地立会い等など詳細な部分まで学ばせて頂き、平成28年、無事白河市に事務所を構えることができました。

開業後は、いつ仕事の依頼が入ってくるのか心配でしたが、平成28年4月に「土地分筆登記」の依頼を頂くことが出来ました。初めての依頼だったので、心配でしたが修行で学んだことを発揮し、5月20日に依頼を完了したことで、土地家屋調査士にやっとなれたと実感することができました。

今後は、土地家屋調査士制度を広く知って頂くため日々精進していきます。

随 筆

ふと立ち止まったときに思うこと

郡山支部 渡 邊 優

平成27年4月に開業してから2年弱、何も分からない状態から現在まで必死で走ってきました。

この間に、総会（懇親会）、研修会（懇親会）、新人研修、特別研修、青年調査士会全国大会...と、沢山の先輩方と接する機会がありました。そこで様々な先輩調査士と沢山のお話をさせていただき、業務に関するアドバイスや過去の経験談等を拝聴し、大変有意義で貴重な経験をさせていただきました。

話を聞きながら思ったことがあります。職業人は、例えば人柄・技術・誇り・責任感など様々な要素で構成されてその人の「色」が出るものである、と考えます。我ら土地家屋調査士も例に漏れず皆さん様々な「色」で溢れかえっています。

どっしりとした濃い色、淡くも存在感がある色、真の強い色、派手な色など...、同じ仕事をしているとは思えないくらい対局な色をしている人々...。不思議です。

でも、それらに共通して言えることは、各々の強い信念に基づいてできた色である、というふうに思います。

私はまだまだ真っ白に近い色ではありますが、日々勉強・精進を重ね、にじみ出てきた色が自分の「色」である、と胸を張って言える時を目指してこれからも頑張っていきます。

* * * * *

食

いわき支部 土 屋 圭 亮

皆様こんにちは。土屋圭亮です。

登録から1年10か月となり、ようやく自分の事務所として形を成してきたように感じております。2014年の12月に調査士試験の合格発表があり、自分の番号があって喜んだことが少し前のことに感じます。その後登録しようかどうか少し迷っていたのですが、まだ自分が若い内に挑戦してみようと考え登録しました。幸いにも私が補助者時代から調査士の先輩方に顔を覚えて頂いており、また、皆様優しい方ですので不安が少ない状態で開業をすることができました。登録してからバタバタしていてあっという間にもうすぐ2年というところでは。登録してすぐに地図作成事業に携わらせていただき、自分の責任で仕事をするの大変さを感じたと共に、補助者の頃とは違う感覚で物事が見える新鮮な感覚を味わってありました。不慣れな私に対して諸先輩の皆様が助けて下さることなどでなんとかここまで無事にやってこれたことを感謝しております。これからも日々精進して参りますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

さて、唐突ですが私は食べるのが大好きです。食べるために生きていると言っても過言ではないぐらいです。朝起きた瞬間からお昼御飯のことを考え...、お昼御飯を食べ終わってからは夕御飯のことを考え...、夕御飯を食べ終わってからは次の日のお昼御飯を考え...。毎日頭の中は食べることでいっぱいです。

現在の私には美味しい料理と出会えた喜びに勝るものは無いのです。甘いものが好きな友人とシュークリームを食べ比べをしたり、突然ソースかつ丼

と喜多方ラーメンを食べたくなって友人を誘って会津・喜多方に行ったり、築地のマグロを姉に送ってもらったり。食への探求心・積極性は我ながら結構なものだと思います。この積極性を仕事にも活かしたいところではありますが…。毎日美味しく御飯を食べるために仕事を頑張っていきたいと思います。

まだまだ未熟な私ですが、諸先輩方々のご指導を宜しくお願い致します。また、美味しい食の情報がありましたら教えて頂けると嬉しいです。これからも宜しくお願い致します。



* * * * *

☆ ちょっと一息…





年男・年女紹介

- ① 趣味 ② 好きな言葉
③ 好きな食べ物 ④ 好きな〇〇
⑤ 昨年の思い出または今年の抱負

福島支部



佐藤 聡之助

テニス

本日天気晴朗なれども波

■し

シーフードあんかけ焼き

そば、鰻重、焼き肉、ラーメン

好きな芸能人(歌手)：少女時代、高橋真梨子

昨年の11月中頃、甥の結婚式で沖縄に行ってきました。仙台空港から那覇空港まで2時間半、あっという間の移動でした。福島は9月、沖縄は29月、その差20月、さすが日本唯一の亜熱帯気候、湿気が多くじっとりした暑さでした。レンタカーで沖縄高速道路を行ったり来たり4日間。定番の首里城を始め美ら海水族館など見てきました。現地で特に感じたことは天気が晴れていてもいきなり雷雨(スコール)や雨、一日の中でも天気の変化が激しいと感じました。あと、ガソリンスタンドはどこも価格の表示が無く、走っている車は、ほとんどが国産車なのには少し驚きました。昼食を基地の近くのレストランで摂ったときまたまた驚き、周りは皆外国人そのほとんどが体格のいい兵士っぽい人たち。食事のボリュームも多く夕食を抜いても良いくらいでした。沖縄料理は苦手でしたから3日目は恩納村(ここが式場)にて中華の店を探しましたがありません。これもチョットしたカルチャーショックでした。しかし海はマリンブルーでとても美しかったです。残念ながら海水浴は10月31日までとのことで泳ぐことは叶いませんでした。今度行く機会があればしっかりと事前に情報を調べて行きたいと思います。



古関 恭造

転石苔むさず...2重の意味があるけど。

海鮮料理、刺身、寿司等
年月の流れ。60歳から12

年の月日が流れ世の中は、(?)。私自身にとっては、身体の変化に伴い、体力・気力の低下等々さまざまな変化がこの12年で起こっているのが実感できる。

最近13年連れ添った愛犬が死んだ。毎日私の晩酌に付き合ってくれていたが今は一人酒。

家内からは「まだ酒飲んでんの」とキツイ言葉は日々あるが、晩酌に付き合ってくれた事はない。酒の量は12年前とは比べようもなく減ってはいるが、まだ毎日飲める。いつまで続くかは分からないが...。身体と酒にはそれなりに付き合いながら、最後までゆっくりまったりとした時間をともに過ごしていければと思っている。



野地 良宏

読書

先ず隗より始めよ

麺類、柿

作家：池波正太郎・新田

次郎など

歌：栄冠は君に輝く・古関メロディー

昨年は公私共に変化のあった年でした。本年は業務道行は勿論ですが、外向きの趣味に行動し明るい年にしたいと考えています。



高橋 浩二

小料理屋めぐり、ぴよ将棋
自由
玉子焼き

好きな芸人：安田大サーカス

昨年は何かと飲食の機会が多く、たまに会う人には、太ったね～とよく言われました。そして、健康診断要経過と買ったばかりのスーツを買い替える羽目になりました。

今年は少し節制して、ほどほどにいきたいと思います。

郡山支部



齋藤 章

バイクでのツーリング
室内用のドローンが最近のマイブーム
仕事ばかりだったので来

年は、ゆっくりと自分の時間を



渡邊 優

音楽鑑賞（ドライブ中に）、料理（気分転換）、雑貨・文具や巡り、ゴルフ（要練習）

シンプル・イズ・ベスト

鰻、牡蠣、トマト、ビーフシチュー

好きな数字：「4」

今年1年、公私共に充実した日々を過ごしていきたいと思います。



箭内 邦夫

年に数回、道路脇草刈りの勝手ボランティア
捲土重来を期す
豆類をとるようにしてい

る

例えば、どのようにしてその点を境界点と判断したのかとの考え方を成果に明記するとこと、また、建物の所有者を、税務面、希望や手続きの軽減を考慮して総合的に判断することが重要と考えている。



久保木 孝一

テニス、親孝行
泥仏（人は泥（煩惱）がついた仏である）
エビスビールとチーズ

宮沢賢治 雨二モ負ケズ

昨年：事務所移転、義母の死去

今年：仕事があったうえで無事平穩、繁雑さ、リスクがコントロールできている事務所経営

白河支部



吉田 和広

ゴルフ、軽登山
初心忘るべからず
寿司、カレー南蛮そば
色：青、芸能人：新垣結

衣、作家：東野圭吾

昨年の思い出：ADR認定土地家屋調査士の勉強がとても良かった。

今年の抱負：仕事、遊び、ともに全力で取り組みたいので、体力作りを心がけて健康管理には十分気をつけたいと思います。

いわき支部



古川 造 吾

温泉旅行

前向き

イカ

好きな漫画家：荒井英樹

昨年は東北ブロック新人研修、福島会新人研修と参加させていただき、調査士試験では勉強することのない実務関係、倫理や心構えについて、また報酬額の考え方等大変参考になりました。研修会等で知り合えた調査士の皆様は私にとって大変な財産です、これからもよろしくお願いします。

昨年は、第2子が誕生し、子育てに協力する機会が増え、家庭・仕事共にとても充実した1年でした。今年も、昨年以上に、満足できる1年にしたいです。

相双支部



高橋 正 道

庭木の手入れ（花木）、

バードウォッチング

忍耐

早春の山菜、秋の茸

日本民謡

昨年は、兄二人を相次いで亡くし最悪の一年となりました。今年はその分7回目の年男を迎えるので幸運の年としたいものです。終わりに調査士会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。



新 道 竜

音楽

練習は嘘をつかないって

言葉があるけど、頭を使って

練習しないと普通に嘘つく

信玄餅

昨年、キャンプがしたくて、道具を一式集めました。なかなか行く機会に恵まれなかった。今年に行きます。

Information

今後の予定

平成28年度 第2回業務研修会

福島県土地家屋調査士政治連盟 第17回定時大会

日 時：平成29年3月4日(土)

場 所：郡山市 ビッグパレットふくしま

福島県土地家屋調査士会 第62回定時総会

日 時：平成29年5月25日(木)

場 所：南相馬市

「ウェディングパーク原町フローラ」

編集後記

今年度実施した地上絵プロジェクトでは、福島会が出前授業に定評のある石川会のやり方を学ぶという意味合いもありました。プロジェクトの進め方や座学の内容など大変参考になり、子供達にも楽しんでもらえたと思います。ただ、全体を通しての作業手順の説明がなかったため、いざ校庭で地上絵を描くときに子供達に多少の戸惑いがあったように感じました。福島会で実施するときは、時間の制約もありますがこの辺りをうまく改良できればと思います。

広報部長 菅野 貴弘

会員異動

●退 会●

8月31日 1113 小針 藤助 (白河支部)

9月30日 297 佐藤淳次郎 (白河支部)

9月30日 536 古宇田常吉 (いわき支部)

10月19日 1380 佐藤 正弘 (相双支部)

会報ふくしま No. 73

発行日 平成29年1月13日

発行者 会長 橋 本 豊 彦

発行所 福島県土地家屋調査士会

〒960-8131

福島県福島市北五老内町4-22

TEL : 024-534-7829

FAX : 024-535-7617

E-mail : info@fksimaty.or.jp

印 刷 有限会社 吾妻印刷

* * * * *

★会報ふくしまは、福島県土地家屋調査士会ホームページへの掲載も行なっております。ぜひご利用下さい。

日本土地家屋調査士会連合会共済会取扱

損害保険ご紹介

数々の危険からあなたをお守りしたい

桐栄サービスの願いです

職業賠償責任保険

会員または補助者が業務遂行にあたり法律上の賠償責任を負い、損害賠償金を支払わなくてはならないときに役立ちます。

団体所得補償保険

保険期間中に病気・ケガによって就業不能となった場合、1か月につき補償額をお支払いする制度です。(最長1年間)

団体総合生活補償保険

保険期間中、国内外を問わず
1) 日常の生活におけるさまざまな事故によるケガを補償します。
2) 病気による入院を日帰り入院より補償します。

測量機器総合保険

会員が所有し管理する測量機器について業務使用中、携行中、保管中等の偶発の事故を補償します。

集団扱自動車保険

会員皆様の自動車はもとより補助者の方のマイカーも加入できます。

損害保険代理店 有限会社 桐栄サービス

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-2-10 土地家屋調査士会館6階

TEL : 03-5282-5166

FAX : 03-5282-5167

上記のものは各種保険の概要をご説明したものです。詳細は弊社までお問い合わせをお願い致します。